

「遠藤譲一さん」におじゃましました！

今回は北海道の最東部、根室管内標津町からユリ生産者遠藤譲一さんをご紹介します。

●ユリ生産者 遠藤譲一さん

標津町でユリ生産を行っている遠藤さんは、ハウス栽培60a、露地栽培20aの計80aを夫婦と娘と従業員2名の計5名で経営しています。



ユリ生産者の遠藤さん



お伺いした時は球根の選定を行っていました

遠藤さんはいろいろな品種を栽培しています。ピンク系を6割、白系を3割栽培しています。現在はピンク系はソルボンヌ、マルコポーロなど、白系のシベリア、カサブランカなどを栽培していますが、毎年品種を替えながら多様なニーズに応えるため年間15品種前後の生産しています。

ユリの出荷時期は7月下旬から10月末までで、年間13万本の出荷を行っています。8割を九州へ、2割を道内に出荷しています。



農場の様子～ハウスは21棟あります



7月上旬のユリの様子
～出荷まであと1月

●冷涼な気候でのユリ栽培

元は野菜農家でしたが、平成8年にオホーツク管内小清水町の花き生産の仲間に入りユリを生産したのが始まりです。平成10年には個人での生産を始め、平成13年にユリ専業となり現在に至っています。冷涼な根室地域で花の栽培には向かないのではと思いますが、この冷涼な気候がユリには適しているとのこと。

ユリは湿潤な土地を好み、気温が低いと茎が硬くなる、花持ちがよい、ピンク系の花は寒さで品種本来の色がでるなど。夏場の冷涼な気候がユリには好条件になります。

●地域での取組

遠藤さんは、地元の子供たちに、もっと花に親しんでもらうため、毎年夏休み明けに標津町内の小中学校へユリを贈呈しています。校舎が明るく華やかになったと、大変喜ばれています。



●今後に向けて

生産、市場、仲卸、花屋、消費者それぞれに思いがあるので、花を使う人がどのように思うかを取り入れていきたいとのこと。

花は消費者に届くまでの管理が重要で、開花や花持ちに大きく影響します。花は食品ではないのですが、HACCPのような品質管理を取り入れ、(つぼみのまま出荷するので)必ず咲く花を、買って良かったと思う花を作っていきたいとのことでした。

(平成24年7月取材 根室振興局農務課)